

NTT-AT

防災分野をトータルにカバーする NTT-ATの取組みと、最近の注目ソリューション

収集・意思決定・配信の 全領域をカバー

NTT研究所のR&D成果及び独自開発の技術をベースに、環境・防災・福祉など安心・安全分野への取組みに注力するNTTアドバンステクノロジー(以下、NTT-AT)。同社ネットワークソリューション事業本部応用NIビジネスユニットで環境・防災・福祉ネットワークチームを率いる岸本亨副ビジネスユニット長は、「私どもでは、安心・安全分野の観点で、環境・防災・福祉に関するトータルな取組みを行っています。そのうち防災分野に関しては、“災害情報の収集⇒災害対策本部での意思決定支援⇒住民や防災関係者への情報配信”という一連のサイクルの全領域をトータルにサポートする様々な製品を提供しています。」と語る。

NTT-ATでは、図1に示すように、災害現場の状況を把握する“収集系システム”、収集情報や配信結果をもとにした“意思決定支援”、災害現場への指示や住民等に情報を配信する“配信系システム”の各領域で、適用分野に応じた優れたソリューションを提供している。収集系システムで

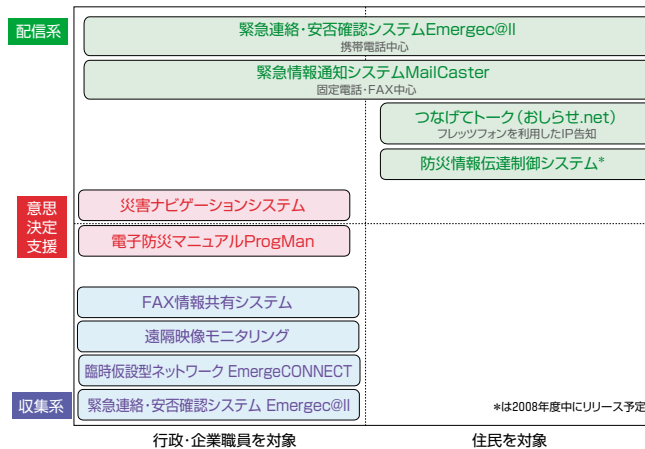


図1 安心・安全に関するNTT-AT製品の適用分野

は、重要施設の映像等を利用した監視や河川・道路の巡視点検を行うシステム、臨時仮設型ネットワーク「EmergeCONNECT」、FAX情報共有システムを提供。また、配信系システムでは、緊急連絡・安否確認システム「Emerg@ll」、緊急情報通知システム「MailCaster」、フレッツフォンを利用したIP告知&コミュニケーションシステム「つなげてトーク」を提供。さらに意思決定支援の分野では、災害ナビゲーションシステムや電子防災マニュアル「ProgMan」を提供している。以下、これら製品群の中から最近特に注目を集めている双方向のIP告知システム「つなげてトーク」と、災害時の情報伝達手段として不可欠なFAX情報の現状での課題を解決する「FAX情報共有シ

ステム」について紹介する。

フレッツフォンを利用した 「つなげてトーク」システム

地域ネットワークを活用した住民向けサービスの一つとして、災害時の住民の安全を確保するための緊急告知を行うIP告知システムが注目を集めている。

NTT-ATが提供する「つなげてトーク」システムは、利用者端末として高齢者でも容易に操作することができる「フレッツフォン」を利用した双方向の情報伝達システムだ(図2参照)。通常放送、緊急放送、定時放送、定期放送など文字・画像・映像・音声を利用したお知らせ放送機能に加え、IP電話、インターネットの機能を1台の端末で実現している。



NTTアドバンステクノロジー株式会社
ネットワークソリューション事業本部
応用NIビジネスユニット
副ビジネスユニット長 岸本 亨氏

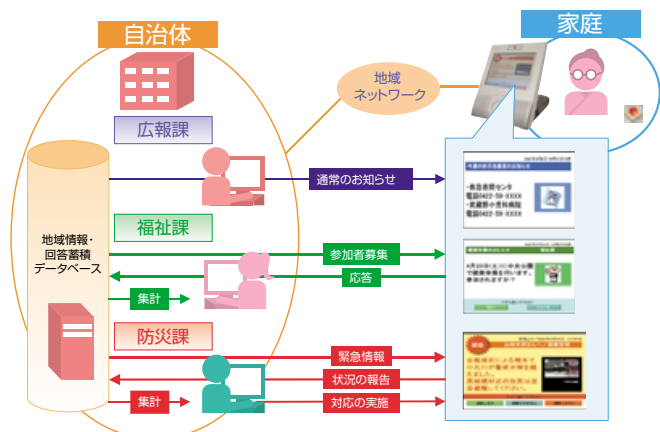


図2 「つなげてトーク」システムの構成

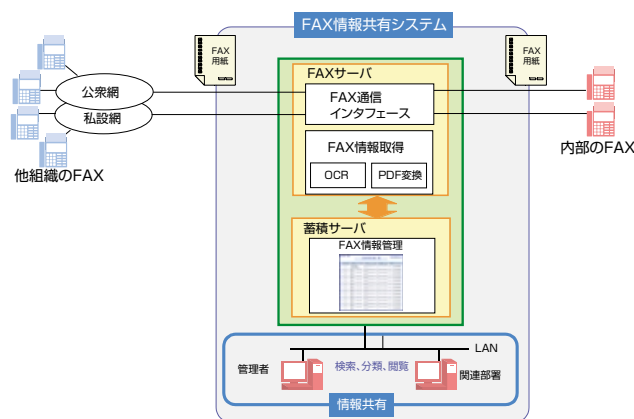


図3 「FAX情報共有システム」の構成

さらに、用途に合わせ、緊急時に予め設定された場所へ連絡ができる緊急通報ボタンや、在室状況確認のための人感センサー、注意喚起のための回転灯やスピーカーなどのオプション機器の利用も可能である。

お知らせ放送（IP告知）は、特定のグループのみに情報を提供するグループサービスと、全端末に一斉に情報を配信する一斉サービスの2種類が可能である。また、従来の防災無線では実現できなかった双方向機能として、お知らせ放送に対して、回答ボタン（最大3個の選択ボタン）による返信機能も備えている。

「つなげてトーク」システムは、緊急時のみならず平常時のコミュニケーションツールとして、日常生活においても役立つIP告知システムとして自治体における利用が期待されている。

既設のFAXを利用した「FAX情報共有システム」

手書きによる簡単な情報伝達と、紙に情報を記録できるためFAXは

重要な情報伝達手段として使われている。特に、電子メールの利用が拡大した現在も、災害など緊急時の情報伝達手段には、依然として電話とともに広く使われている。しかし受信FAXの見落としによる情報伝達の遅延、紙によるFAX情報の整理・集計等が煩雑といった課題もある。

NTT-ATでは、既設のシステムやFAX操作、運用方法などを変更することなく、現状の紙によるFAX情報の送受信に加え、FAXの内容等を分類・整理、電子化して、FAX情報を関係部署間等で共有することができる「FAX情報共有システム」を開発・提供している。

「FAX情報共有システム」は、災害時の初動期の対応の迅速化、作業の漏れをなくすことを目的としたもので、FAX情報を取り込むFAXサーバと、FAX情報を蓄積・管理する蓄積サーバで構成される（図3参照）。これにより、現状の紙によるFAX情報の送受信に加え、送信元、宛先、FAXの内容などの基本情報をサーバ上で自動的に分類・蓄積・

管理が可能のほか、文面のPDF変換や、OCRでの付加情報による分類も可能である。管理されたFAX情報は、LANを介して検索・分類・閲覧等が可能であり、関係者間での情報共有を容易に実現できる。通常のFAXサーバにない大きな特長として、従来通りの操作でFAX送信ができることがあげられる。送信元から送信されたFAX情報を「FAX情報共有システム」が自動で取得し、宛先FAXに転送すると同時に、FAX情報を蓄積・管理するという仕組みである。

NTT-ATでは、本システムを防災分野だけでなく、FAX情報を大量に扱う業務分野への展開も視野に積極的に取り組んでいる。

お問い合わせ先
NTTアドバンステクノロジー(株)
 ネットワークソリューション事業本部
 応用NIビジネスユニット
 環境・防災・福祉ネットワークチーム
 TEL：0422-36-7600
 E-mail：bousai@ntt-at.co.jp
 URL：http://www.ntt-at.co.jp